

としょかん

いわて

岩手県立図書館報

2025. 9

No.197

contents

目次

ページ

02

特集 図書館の特色あるコレクション

11

県内図書館の活動紹介

遠野市立図書館

13

レファレンスコーナー

・南部同郷会とはどのような団体だったのか知りたい。

14

児童コーナー わかば通信

なつやすみおうえん隊

15

図書館掲示板

防災ゲームの貸し出し始めました

特集

図書館の 特色あるコレクション

古文書や古記録。ゆかりの先人の蔵書。特定のテーマに基づいて収集した資料群。図書館それぞれの特色あるコレクションは、郷土の歴史・文化を伝える貴重な資料として、また地域や図書館の魅力を発信する観光資源として、活用されています。

本特集では、貴重な歴史資料としてその一部が国の重要文化財にも指定されている奥州市立水沢図書館「留守家文書」、南部杜氏のゆかりの地として地域文化をPRする花巻市立石鳥谷図書館の「酒造文化資料室」、猫本を集めたコーナーを設置することで図書館の魅力を創出し県内外から注目を集めている奥州市立胆沢図書館「猫ノ図書館」について、お話をお伺いしました。あわせて、岩手県立図書館のコレクションについてもご紹介いたします。

《岩手県立図書館》



岩手県立図書館の特殊文庫と コレクション

岩手県立図書館には、岩手県にゆかりのある人物の蔵書をご寄贈いただいた11の特殊文庫と、開館以来網羅的に収集している2つのコレクションがあります。ここでは、3つの特殊文庫と、コレクションについて紹介します。

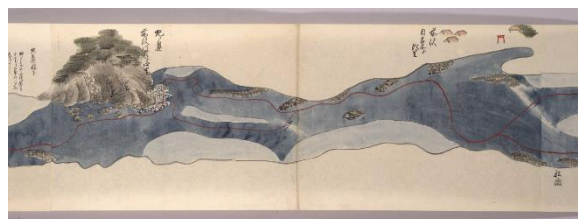
■ 新渡戸文庫

郷土史家の新渡戸仙岳（1858-1949）は、教育者、新聞記者、書家として幅広く活躍するとともに、郷土文化の保護と啓蒙普及に尽力しました。昭和22年（1947）には、岩手県立図書館の嘱託職員として古文書などの資料整理を担当し、後進の指導も積極的に行っています。

晩年に寄贈した郷土資料の大半は、古文書資

料です。岩手の歴史研究の基礎資料、根本史料となるものも多く見られ、『大日本史料』や『近世地方経済史料』などにも収録されています。行政、武家作法、文芸など、蔵書分野も幅広く、研究や史料編さんのために県内外から収集したものを中心に、自ら分類整理し、表紙に朱筆で資料の来歴や、写した年月などを書き加えています。

貴重な資料として、長さ44.6メートルにもなる『北上川ひらた之航路図』は、黒沢尻河岸から石巻湊に至る北上川の航路を記した彩色絵巻で、河川の航路図としては、全国に一枚しか残っていないといわれています。



▲北上川ひらた之航路図

寄贈に至った経緯は、『新渡戸文庫郷土資料目録』の「新渡戸文庫収蔵のいきさつ」に詳しく記されています。

昭和 24 年(1949)4 月に仙岳の自宅でボヤ騒ぎが発生し、蔵書の一部は外に投げ出されたり、水をかぶる被害を受けてしまいました。それから数日後、仙岳は囑託司書の吉田孤羊^{よしだこうよう}に自身の蔵書の処理を一任します。

1 万冊以上あると見積もられた蔵書のうち、約 2,000 冊の郷土資料は寄贈され、約 4,000 冊の一般書は図書館が購入しました。蔵書は、図書館職員によって毎日運搬され、吉田を中心とした目録整理等の作業は約 2 ヶ月かけて行われました。

その後、当時病を患っていた仙岳は、同年 9 月 26 日に 92 歳の生涯を閉じました。このとき、岩手県で初めての文化葬が行われています。

さまざまな分野において活躍した仙岳ですが、そこには一貫して「教育者」という視点があったといえます。仙岳は、一つの事跡について、藩主や武士層の資料だけでなく、農民や商人など庶民の資料も対等に取り扱い、偏見が生じないように資料を収集していました。

それまでの思想や慣習にとらわれず、客観的に物事を見つめ、論理的に思考する仙岳の視点は、江戸から昭和にかけて、旧来の文化や政治体制が劇的に変化していく様を目の当たりにしたことで培われていったと考えられています。そして、それを根底で支えていたのは、郷土への深い思いだったのかもしれません。

仙岳が半生を捧げて収集した「新渡戸文庫」の誕生を契機として、県内図書館に郷土資料保存の機運が高まったといわれています。

■ 原敬文庫

「平民宰相」として知られる現盛岡市出身の政治家・原敬(1856-1921)。東京の自宅にあった原の蔵書約 2 万冊は、関東大震災と戦災によってすべて焼失してしまいました。

しかし、盛岡市にある別邸の倉庫に、明治・大正時代の雑誌約 3,300 冊と図書約 690 冊が残

されており、昭和 54 年(1979)に寄贈されることになりました。

蔵書のジャンルは、哲学・宗教・法学・アジア諸国の地誌など多岐にわたります。中でも、国内外の鉄道史や統計、線路地図、調査資料など鉄道関係の資料が多く見られ、明治 43 年(1910)に鉄道院業務調査会議から発行された『伊太利鉄道調査報告』の表紙には、「総裁閣下」と書き込みがあります。原は、明治 44 年(1911)8 月から鉄道院総裁を務めており、その際に用いた資料とも考えられます。また、原の盛岡藩校時代の同期で、ローマ字論者としても知られる物理学者・田中館愛橘の『発音考』の表紙には、「kakite tutusinde Hara Kun ni sasagu」(書きて謹んで原君に捧ぐ)と書かれており、原の交友の様子もうかがえます。

特筆すべき出来事として、令和 4 年(2022)9 月、原敬の自筆と思われるメモが見つかりました。

合川正道著『英吉利契約法』と末広重恭著『現今の政事社会 続編』、どちらも明治 20 年代の資料です。前者には、本書の要点を和紙に箇条書きのような形でまとめたメモ 2 枚が挟まっており、後者の見返し(遊び)の両面にはページいっぱいの書き込みがありました。



▲ 原敬の自筆と思われるメモが見つかった資料

原敬記念館の学芸員に資料を見ていただいた結果、前者の 2 枚のメモは、資料と同時代のものと思われるが、原の自筆ではない可能性もあるということでした。

一方、後者の見返しの書き込みは、筆跡から原の自筆である可能性が極めて高く、文章も「群衆のゴシヤマキ*ニ過キス」(群衆の「感情に

任せた俗論」に過ぎない」という東北訛りが見られ、「若き官僚時代の素の原が出ている文章は、極めて珍しい」と解説いただきました。

原敬の勉強への姿勢を示す資料が、開館 100 周年の年に見つかったことは、まさしく奇縁でした。

■ 森文庫

東北社会経済史学者・森嘉兵衛(1903-1981)は、法政大学経済学部で日本近世農業経済史を専攻した後、昭和 8 年(1933)岩手県教育会嘱託として、岩手県史資料の収集に努めました。この間、学生時代に『旧南部藩に於ける百姓一揆の研究』を出版すると、学界で高く評価され、広く知られるようになります。

昭和 25 年(1950)からは岩手大学教授を務め、多くの人材を育成するとともに、若い研究者を育てる目的で「岩手史学会」を結成し、機関誌『岩手史学研究』を刊行します。第 66・67 号の「特集・故森嘉兵衛教授の学風と思い出」では、教え子が生前の森との思い出を綴っています。その中には、森の蔵書について記したものも見られます。

学外の県内外の研究者がたくさんお宅に伺い指導をいただいていることも多かった。(中略)ぼう大な蔵書を大切にしていた。しかし、私たちや県内外、あるいは外国の方など研究者が伺えば、自由に貸出し、開放したものであった。

(「森史学を語る」より)

森の業績には、『岩手県の歴史』、『南部藩百姓一揆の指導者三浦命助伝』など、数多くの郷土資料を手掛けたことも挙げられます。『森嘉兵衛博士略歴・著作目録』によれば、森の執筆した著書は 41 点、資料 11 点、報告書 7 点、論文 89 点、監修・編集 18 点という膨大な数にのぼります。

そのなかでも、岩手日報紙上に連載した、『岩手をつくる人々』は、多数の読者を引きつけ、岩手県民の郷土史への関心を高めました。

平成 25 年(2013)にご遺族より寄贈いただいた、森の蔵書 3785 冊は、令和 7 年(2025)8 月にすべての登録作業を終えました。

岩手の郷土史研究の基礎を築いた森の蔵書を通して、今後多方面での利用が期待されます。

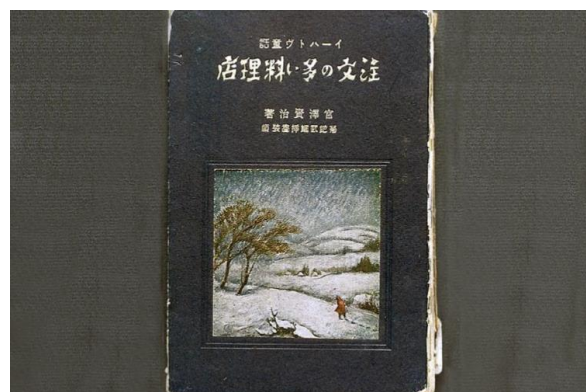


▲森文庫

■ 賢治文庫・啄木文庫

岩手県立図書館では、郷土の生んだ代表的な文学者、宮沢賢治(1896-1933)と石川啄木(1886-1912)に関する資料を、著書をはじめとして、伝記、研究資料に至るまで、開館以来網羅的に収集してきました。

賢治文庫は、童話集『注文の多い料理店』や、詩集『春と修羅』の初版本のほか、伝記、研究資料、絵本、洋書等、幅広いテーマの本が収集されています。



▲『注文の多い料理店』の初版本

啄木文庫は、石川啄木研究家としても知られる吉田孤羊が半世紀かけて収集した約 900 冊を母体としています。詩集『あこがれ』や、歌集『一握の砂』『悲しき玩具』の初版本、啄木が盛岡で発行した雑誌『小天地』、約 80 冊もの『啄木関係新聞切抜』等があります。

賢治文庫・啄木文庫として収集した資料は、隔年で交互に開催する企画展「賢治資料展」「啄木資料展」において公開しています。今年度は、10 月 26 日から「第 37 回賢治資料展」を開催します。

資料の展示を通して、賢治、啄木ともに、時代や世代を超えて今なお多くの人に読み継がれていることがうかがえます。

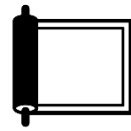
■ ホームページに蔵書一覧を公開

森文庫が整理されたことを機に、特殊文庫の蔵書一覧をホームページで公開しています。資料を活用いただくことで、学術研究や、文化の発展に貢献できればという思いから、ページを作成しました。さまざまな縁によって寄贈された、特殊文庫のヒト・モノ・コトのつながりを知る一助となれば幸いです。

(岩手県立図書館 岩持 河奈子)

【参考文献】

- ・『新渡戸文庫郷土資料目録』
(岩手県立図書館 1954.2)
- ・『岩手県立図書館のあゆみ』
(岩手県立図書館 1969)
- ・『図書館雑誌 第 117 巻 第 3 号』
(日本図書館協会 2023.3)
- ・『岩手史学研究 第 66・67 号』
(岩手史学会 1984.3)
- ・『森嘉兵衛博士略歴・著作目録』
(森嘉兵衛著作集刊行会 1981.4)



《奥州市立水沢図書館》 留守家文書

■ はじめに

本稿では、奥州市立水沢図書館所蔵『留守家文書』の概要を紹介する。また、『留守家文書』の利活用状況を述べ、今後の見通しを示す。

■ 留守家(水沢伊達家)の歴史

『留守家文書』は、文治五年奥州合戦の後、源頼朝から陸奥国留守職と奥州惣奉行を命じられた御家人伊沢家景の子孫に伝わった文書群である。家景の子孫は留守職を由来とする「留守」を苗字とし、鎌倉時代以降には陸奥国府周辺地域で活動した。室町時代から戦国時代にかけては伊達家との結びつきを強め、伊達家からの養子が家督を三度継いでいる。伊達政宗の叔父で、留守家の養子として家督を継いだ留守政景の代に豊臣秀吉の奥羽仕置により所領を失い、その後は伊達家臣となった。

政景が伊達の苗字を許されて以降は、江戸時代を通じて伊達の苗字を使用し、仙台藩主一門の有力藩士として藩政に携わった。政景の子宗利の代に胆沢郡塩竈村に所領と在郷屋敷(後の水沢要害)を与えられたことから、仙台藩主伊達家と区別するために水沢伊達家とも呼称されている。明治時代に伊達から留守に苗字を戻したため、この一族は「留守」家として地域では広く知られている。

■ 『留守家文書』の概要

『留守家文書』の中で、学術的価値が認められた鎌倉時代から江戸時代初期までの文書 107 点が国の重要文化財に指定されている。このうち、鎌倉時代と南北朝時代の文書には土地の権利に関係する文書が多く含まれているが、実はほとんどが留守家庶流の余目家に伝来した文書である。これらの文書は、江戸時代に留守家の系譜を調査する際に余目家から水沢伊達家に

提出され、そのまま水沢伊達家の文書群に入ると推定される。室町時代の文書はなく、戦国時代の留守景宗（伊達尚宗の子で留守家の家督を継ぐ）の頃から断続的に文書が残されているが、江戸時代の系譜調査の際に集められた文書も混在しており、文書の全てが元々留守家に伝来した文書という訳ではない。政景以降の文書については、大半は留守家（水沢伊達家）伝来の文書とみられる。

このように『留守家文書』中に伝来が異なる文書が混入しているのは、室町・戦国時代にかけて留守家に伊達家から複数回養子が入った影響とみられる。伊達家から幾度も養子を迎える中で、留守家伝来の文書が引き継がれず、歴史とともに失われたのである。その欠落を埋めるため、江戸時代に文書が集められ、現在の文書群が形作られたと言える。現在の重要文化財『留守家文書』の構成自体が、留守家の歴史を物語っている。

なお、『留守家文書』には重要文化財指定外の江戸・明治時代の伝来文書が、約 1,900 点残存する。これらの文書は、江戸時代における有力仙台藩士の実態のみならず、明治維新後の留守家の活動を示す貴重な文書となっている。

■ 『留守家文書』の利活用

重要文化財指定の『留守家文書』については、奥羽に関する貴重な文書群として早くから注目され、研究で活用されてきた。翻刻文は、『仙台市史』に写真版とともに掲載され、利活用することができる。

指定外の『留守家文書』については、地元で活動する水沢古文書研究会により、昭和 62 年(1987)から翻刻作業が続けられている。活動の成果として『近世留守家文書』が発刊されており、現在 36 集まで刊行済みである。このように、『留守家文書』は、地域の歴史を示す文書として、地域の団体によって利活用されている。

これら従前の利活用に加え、近年は文書を始めたとした様々な歴史資料のデジタル公開が求められるようになってきた。奥州市教育委員会では、研究機関と連携して市内の歴史資料などの

デジタルアーカイブ化を進めており、重要文化財指定の『留守家文書』についてもデジタルアーカイブでの画像公開を検討している。指定外の『留守家文書』については、現時点でデジタルアーカイブ化の計画はないが、今後検討を行う。

デジタルアーカイブ化を行うことによって、文書の存在や記載内容が保存場所を超えて広く社会に共有され、様々な利活用が可能となる。そして、文書へのアクセスが容易になることによって、地域研究がさらに発展することが期待される。また、情報技術の進展により、AI を使用したくずし字の解読なども可能となりつつある。将来的な文書の利活用を見据えた場合、今後はデジタルアーカイブによる画像公開も想定しておく必要があるだろう。



■ おわりに

『留守家文書』は様々な歴史の蓄積として、現在の構成となっている。そこから歴史を紐解くためには、文書のくずし字解読を行い、内容を理解していかなければならない。そのためには、地域住民の理解を得ながら様々な手法を検討し、公開を進めていくことが重要であろう。

（奥州市教育委員会主任学芸員 高橋 和孝）

【参考文献】

- ・水沢市立図書館編『留守家古文書目録』（水沢市立図書館、1976 年）
- ・仙台市史編さん委員会編『仙台市史』通史編 2 古代中世（仙台市、2000 年）
- ・仙台市史編さん委員会編『仙台市史』資料編 1 古代中世（仙台市、1995 年）

《花巻市立石鳥谷図書館》 酒造文化資料室



平成5年(1993)5月5日、花巻市立石鳥谷図書館（当時は石鳥谷町立図書館）が開館しました。

現在は「道の駅いしどりや」の敷地内ですが、当初は図書館と歴史民俗資料館だけが建っており、あとから道の駅が建設され現在にいたっております。

石鳥谷町は300年の伝統をもつ酒造りの町、南部杜氏発祥の地として知られ、町内には造り酒屋も多く、冬場に他県の蔵元へ出稼ぎに行く方なども多数いらっしゃいました。この杜氏の里をPRすべく、歴史民俗資料館、図書館の外観は酒蔵を思わせる作りになっており、道の駅



▲酒蔵をイメージした建物

も同様のデザインで統一されています。

話は図書館に戻りますが、この図書館は当時の町長・大竹義文氏と教育長・菅原昭造氏がぜひ町に図書館をと切望して建設されたと聞いておりました。オープン時には、県内の町村部で初めて図書館システムを導入し、蔵書のほとんどが新しいものに買い替えられたため、開館後しばらくは書架に並んでいる本がなくなるほどの貸出量に目を見張ったものでした。

また、杜氏の里づくりを推進していることから酒造文化に関する図書や物品の収集に努め「酒の図書館」としての機能をもった施設を目

指しました。2階には「酒の資料室」として酒造関係資料を収蔵する部屋が設けられ、日本酒だけでなく焼酎、ビール、ワインなど醸造から料理、エッセイ等まで酒に関する本を幅広く収集し、図書約300冊でスタートしました。殊に、当時は今よりも日本酒ファンが多く、日本酒に関する資料は手に入り易かったのを覚えています。図書以外にも姉妹都市アメリカバーモント州のラットランド市の酒器を中心に、日本はもとより、中国、フランス、ドイツなどの世界の珍しい酒器など、約490点を公開していました。その数の多さ、珍しさに「図書館なのにこんな展示があるなんて、びっくりした」と帰り際に感想をおっしゃっていく方もありました。

石鳥谷には南部杜氏協会（酒造りに携わる方々への各種講習会の開催や、杜氏資格選考試験の実施など酒造従業員のための養成・育成を主催）があり、毎夏には「杜氏」になるための講習会、資格選考試験も行われており、南部杜氏自醸清酒鑑評会も開催されています。

日本酒の需要が落ち込み、石鳥谷町内の大手の造り酒屋も廃業に追い込まれるなど暗い話題も多かったのですが、近年では県内の造り酒屋も新たな酒造りに取り組み、著名な日本酒を作り上げるなどの努力が実り、徐々に日本酒ファンの数も上向きになっているように思います。

現在も石鳥谷が長年にわたり継続開催しているイベント「南部杜氏の里まつり」があり、去る6月には南部杜氏自醸清酒鑑評会出品酒の飲み比べや昔ながらの酒屋唄の披露などがにぎやかに繰り広げられました。これに合わせ、石鳥谷図書館でも所蔵資料の中から日本酒に関する本の展示や、現在は歴史民俗資料館に移管となった酒器などを借用してきて、来館者の関心と理解を深める企画を開催し、道の駅を利用した方も来館するなどして、高い評価をいただきました。また、隣の大迫町はワインの醸造で有名であり、当館と同じようにワイン関係の

資料を収集しておりますが、お互いの資料を活用して交換展示も行い活性化を図っています。



▲現在の酒造資料室



▲書架に飾られた酒瓶や酒器

現在、酒造関係資料は約 5,000 冊となり、研究や趣味の読書に利用されています。これからお酒に関することなら石鳥谷図書館へ行けばよいといわれるよう、開館当初を知る者としても、引き続き酒造関係資料の特色ある収集に努めていきたいと思っております。

(花巻市立石鳥谷図書館 似内 千鶴子)



《奥州市立胆沢図書館》

猫本コーナー「猫ノ図書館」

猫本コレクション

奥州市立胆沢図書館は別名「猫ノ図書館」とも呼ばれています。平成 29 年(2017) 2 月 22 日(猫の日)に猫に関する本を集め、図書館の一角に常設の猫本コーナー「猫ノ図書館」を開設しました。コーナーの顔・ねこ館長は市内から公募した「むぎ(オス・当時 1 歳)」で、普段は不在ですがたまに気まぐれ出勤します。コーナー開設には、東京神保町の「猫本専門 神保町にゃんこ堂」に協力いただいています。



▲猫本コーナー「猫ノ図書館」ねこ館長 むぎ

■「猫ノ図書館」開設のきっかけ

平成 26 年(2014)以降、入館者数や貸出冊数が低迷し、2 年で 1 万冊も減少、人が来ない「ヒマな図書館」となりました。利用者からの苦言に職員のモチベーションの低下……近い将来図書館本来の機能が損なわれてしまうと危惧し始め、予算 0 円、既存の本を活かし、独自性を出せないかと考え閃いたのが、「本×猫」でした。きっかけは「空前の猫ブーム」や日本一有名な猫本『吾輩ハ猫デアル』の著者夏目漱石が平成 28 年(2016)没後 100 年、翌年が生誕 150 年の節目。また、過去に猫に関する企画展が好評だったことや、猫が登場する本が多いことにも着目。その他猫の本屋はあるが、常設では公立図書館で存在しないことも決め手となりました。

平成 27 年(2015)秋から構想し、平成 28 年

(2016) 2 月 22 日(猫の日)に猫本 222 冊の展示で試行したところ、幅広い層から好評でした。そこで「猫ノ図書館」開設の準備をスタートしたのです。

■ 「猫ノ図書館」開設までの日々

猫の日を「猫ノ図書館」開設日と決め、猫に関する情報収集や設置場所、目的やコンセプトを明確化しました。「猫ノ図書館」の名前は実は本から拝借、作中では「猫の図書館はなんでもわかる不思議な図書館」と表現されています。

平成 28 年(2016)秋、コーナー部をプレ開設しましたが魅力が不足し利用も少なく、これでは失敗すると感じ、上京して「神保町にゃんこ堂」からノウハウを学びました。例えば「オススめ本は目線の高さに面出しする」「帯を有効に使う」「パネルを活用する」を戻って実践すると魅力ある棚へと激変しました。



▲「猫ノ図書館」 ビフォー・アフター（開設時）

また、ねこ館長活用法の助言を受け、市広報誌や新聞で公募のうえ、選出は来館者投票で「むぎ」が館長となりました。猫の日の話題として地元テレビ局や新聞社に取り上げられ、全国

の猫好きの来館や問い合わせなどが殺到し、コーナー開設時の目的「図書館に足を運ぶきっかけを作る」は成功することができました。



▲ねこ館長決定ニヤース速報
周知掲示物

■ コレクションの特徴

「猫ノ図書館」には、猫が登場する本＝小説・エッセイ・児童書・絵本・コミック・写真集があり、面出しを多用しています。猫本コレクションは、明治 38 年(1905)から 40 年(1907)に刊行された美しい装幀を昭和に復刻した日本一有名な猫本『吾輩ハ猫デアル』やむぎ館長が掲載された猫カレンダー・雑誌・貴重な著者サイン入り本などがあります。開設当初約 600 冊だった蔵書は、現在約 2,300 冊になっています。



▲盛岡市出身・南幅俊輔さんの『ワル猫カレンダー MOOK2025』内に「猫ノ図書館」とむぎ館長が掲載



■ 「猫ノ図書館」の活用のされ方

猫好きな人が県内外から来館したり、高齢者施設の散歩コースやインターンシップで市内

中学生・高校生が図書館に興味を持って職場体験をしたり、出版社や個人などから猫本の寄贈もあります。奥州市のPRにも、むぎ館長は一役買っています。



▲奥州市公式キャラクター「おうしゅうたろう」と対面

何より、これまで図書館を利用しなかった人が「猫ノ図書館」をきっかけにハマリ、図書館好きになった方もいます。もっとも目立つ変化は、「猫ノ図書館」がある一般書架にこれまで目にする事のなかった親子連れが増えたことです。「猫ノ図書館」近くの書架も利用されるようになりました。

■ おわりに

猫本コーナー「猫ノ図書館」開設を機に、閑散とした館内は人が絶えず訪れ、その結果母体である奥州市立胆沢図書館全体を応援してくださるようになり、本に親しむきっかけに繋がったと考えます。

(ねこ館長秘書 渡辺 貴子)

猫ノ図書館 周年記念グッズ&イベント

(グッズデザイン制作:南幅俊輔さん)



=5周年記念グッズ=
5周年ニャン帳(ノート)



=6周年記念グッズ=
ポストカード・缶バッジ



=7周年記念グッズ=
しおり



=8周年記念イベント=
南幅俊輔 Presents「むぎ館長写真展」
in さわや書店フェザン店(盛岡市)

県内図書館の活動紹介

県内各地の図書館から特徴と活動をご紹介します

遠野市立図書館

所在地：〒028-0515 岩手県遠野市東館町 3 番 9 号

TEL: 0198-62-2340 FAX: 0198-62-5758 Email: tosyokan@city.tono.iwate.jp

現館建築年月：昭和 55 年 6 月 延べ床面積：1,798 ㎡



図書の蔵書冊数： 171,253 冊 (令和 7 年 4 月 1 日現在)

年間来館者数： 35,721 人 (令和 6 年度)

年間登録者数： 13,297 人 (令和 6 年度)

開館時間	火～木：午前 9 時 00 分～午後 5 時 00 分 金～み：午前 9 時 00 分～午後 6 時 00 分 土・日・祝日：午前 9 時 00 分～午後 5 時 00 分			
休館日	・月曜日・月末日 ・年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日） ・蔵書整理期間（11 月 24 日～30 日）			
登録範囲	身分証明書の確認により登録可能			
貸出点数・期間		点数(点)	期間(日)	延長
	図書	10	21	可
	DVD (図書貸出時に限る)	1	21	可

遠野市立図書館の特徴と活動

はじめに

遠野市立図書館は、前身が町立遠野図書館（昭和3年4月設置）で、昭和55年（1980年）に開館した日本でもめずらしい図書館と博物館が併設した施設です。一般資料の他、特に民俗学・民話に関する図書を豊富に揃えています。

また、併設する博物館は、国内で屈指の民俗専門の博物館で、平成22年（2010年）に『遠野物語』発刊100周年及び開館30周年を迎えたことをきっかけに全面リニューアルを行いました。

図書館では『遠野物語』を「読み」、遠野の人々の自然や暮らし・文化・歴史を「調べ」、博物館で多彩な映像資料や展示を「視て」確認することが出来ます。

市民に親しまれる図書館を目指して

より多くの方に図書館を利用して頂くため定期的に本の企画展や様々なイベントを開催しています。

令和7年度（2025年度）は夏休み企画として誰でも気軽に参加できるワークショップ「オリジナル缶バッジをつくろう！」を開催しました。

例年、こども本の森と健康推進課と連携し、まちなかスタンプラリーを同時開催していることもあり、たくさんの子供たちや親子で大賑わいでした。参加者はそれぞれ思い思いのイラストを描き、お気に入りの1枚を缶バッジにしてプレゼントすると、早速、かばんや洋服などに身につけていました。中には、缶バッジが出来上がる所を興味津々で見つめる参加者もいて大好評でした。



▲令和7年7月に開催したワークショップの様子

読書ボランティアとの連携

読書ボランティアと情報共有を図りながら、学校での読み聞かせや学校図書館の本の整備や補修、選書のアドバイスなど学校からの要望や実状に合わせた読書推進活動の支援を行っています。

学校によっては図書担当の先生だけでは手が回らない所もあるため、支援活動を通じて学校の実情を知る良い機会でもあり、子どもの読書活動を推進する上でとても参考になっています。

また、館内においては月1回ボランティアによる読み聞かせ会の実施、乳幼児健診時におけるブックスタート事業での本の紹介、手遊びの実演など親子で読書に触れ合う機会を提供しています。

その他、活動の資質の向上と活性化を図るため読書ボランティア研修会を開催し、スキルアップのほか、情報共有の場にもなっています。



▲読書ボランティア研修会の様子

今後について

令和7年度（2025年度）は伊能嘉矩没後100年・柳田國男生誕150周年という節目の年でもあります。「遠野物語」をはじめ先人たちが残した貴重な民話や民俗に関する資料を今後も積極的に収集・保存・活用を図り、より多くの方の生涯学習を支え、当館の特徴を広げていきたいと思っています。

また、学校・地域・関係団体との連携を深め誰もが本に親しめる環境づくりと情報発信に努めながら活発的な読書活動を普及し、何度でも訪れたくなる地域に根差した図書館を目指していきたいと考えています。

（遠野市立図書館 担当：阿部）

レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。

Q.

明治34年1月27日の『原敬日記』に、南部同郷会が逓信大臣招待会を催したとの記述がある。南部同郷会とはどのような団体だったのか知りたい。

【キーワード】 南部同郷会 原敬 鹿島精一 新岩手人

【調査プロセス】

1. 原敬関係資料及び南部同郷会関係資料を確認
2. 『岩手日報』掲載記事、『鹿島精一追懷録』を確認
3. 南部家関係資料を確認

【回答】 ※引用文中の旧字体は新字体に変更しています。



『原敬日記』には、首相就任時等に祝賀会を開催した団体として、南部同郷会（以下同郷会）の名が登場します。詳細を確認すべく関係資料を調査したところ、昭和10年発刊当時の会則と会員情報が収録された『会員名簿』と『南部同郷会記事録』が見つかりました。このうち『南部同郷会記事録』は大正後期から昭和初期の記録となっており、会の沿革について、明治13年春に東京で創立し、華族令廃止後の昭和23年頃に自然消滅したと紹介しています。

明治から大正前期の詳細な活動記録は見つかりませんが、この時期の同郷会を知る手掛かりとして、明治35年2月の『岩手日報』に一部掲載された「南部同郷会規則及会員簿」が挙げられます。

同規則には、“…互に親睦を旨とし切磋琢磨し以て各自の志業を達するを目的とす”、“例会に於ては互に胸襟を開き有益の談話をなし智辯の交換に努め気節の鍛錬を謀るべし”とあり、旧南部藩出身者達の強い向上心の元に生まれた団体であったことが窺えます。

また、『原敬関係文書 別巻』には、「同郷会会員名簿」（大正2年11月調製）が収録されていました。同名簿では、南部家当主のほか、田中館愛橘、新渡戸稲造、野村胡堂、原敬、山屋他人等、著名な県人の所属を多数確認することができます。

上記資料の他、同郷会幹事を務めた『鹿島精一追懷録』に当時の会員らの証言が集まっており、昭和初期までの在京県人団体の概略を知ることができます。資料のなかで、同郷会は“在京の旧藩出身者並に学生に依つて、旧藩主を中心として作られた”親睦会であり、“大正前期までは郷土関係の唯一の強力な会合団体だった”と紹介されています。その活動は親睦のみに留まらず、関東大震災時には罹災県人救済資金の募集や在京岩手学生寮の建設を行う等、災害復興や後進育成にも取り組みました。

こうした活動を経て昭和初期に最盛期を迎えた同郷会ですが、会の中心となる学生の参加は減少傾向にありました。この状況を憂慮した当時の幹事達は、各校の在京県人会へ同郷会への糾合を呼び掛けます。その結果、新たに在京岩手学生会や新岩手人の会が誕生、雑誌『新岩手人』の発刊が開始され、従来の県人団体や地方の枠を超えた交流が広がりました。当時1000名以上が集ったという学生会総会の様子は、『時代の光景 旧盛岡藩主南部家のアルバムから』掲載の写真からも確認できます。

明治以降、多くの人材を輩出してきた岩手県。彼らの活躍の裏に県人コミュニティの存在があったことは、あまり知られていないのではないのでしょうか。故郷から遠く離れた地で、支え合い、切磋琢磨する県人達の姿が垣間見えた興味深い事例でした。

【主な参考資料】 ※（ ）内は当館請求記号

『原敬日記 1』 原 敬／[著] 原 奎一郎／編 福村出版 1965 (K289 /ハ1 /72-1)

『原敬関係文書 別巻』 原敬文書研究会／編 日本放送出版協会 1989.8 (K289 /ハ1 /113-11)

『会員名簿』 南部同郷会／編 南部同郷会 1935.11

『南部同郷会記事録 大正十四年五月－昭和五年十二月』 沢井 敬一／編 [沢井敬一] 2008.8 (K361.65 /サ7)

『鹿島精一追懷録』 鹿島精一追懷録編纂委員会／編 鹿島精一追懷録編纂委員会 1950.4 (K 289 /カ4 /1)

『岩手日報』 1902年2月25日朝刊2面「南部同郷会規則及会員簿」

『時代の光景 旧盛岡藩主南部家のアルバムから』 旧盛岡藩士桑田 2000.3 (K 288.3 /ジダ /イ)

児童コーナーわかば通信

県立図書館児童コーナーの活動をご紹介します。

なつやすみ **おうえん** 隊

なつやすみおうえん隊は、自由研究や読書感想文に進んで取り組みたくなるようなイベントを開催し、なつやすみも宿題も、子ども達におもしろい楽しんでもらおうと企画しました。

- 子どもたちが参加して楽しめる「じゅうけんきゅうのタネ」は、子ども達のなぜ?どうして?をあつめて、なにをしようか迷いがちな自由研究のアイデアさがしに役立ちます。
- 自宅に持ち帰ることのできる「読書感想文がすらすら 書き出しシート」は、低学年向き・中学年向きと2種類作成し、読書感想文の書き方のコツを身に付けることができます。

じゅうけんきゅうのタネ



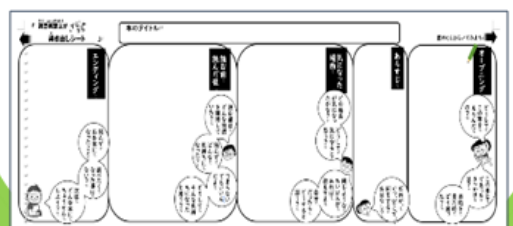
「なぜ?どうして?とおもったこと」「好きなこと」など、8種類の質問がかけられた用紙をじゅうにえます



こたえが記入できたら、掲示場所に貼り付けます

書くことで自分を深くさぐることができ、保護者も子ども達の関心を知ることができます

読書感想文がすらすら 書き出しシート



読書感想文には書き方のコツがあります

「どうしてこの本をえらんだの?」「読む前と読んだ後の印象は?」など質問にこたえていくと、作文の書き方の流れをつかむことができます



図書館 掲 示 板

県立図書館からの連絡や告知をお届けします

「防災ゲーム」貸出、始めました。

自然災害の頻発化、激甚化にともない、災害に対する適応力や対応力が問われつつある現代。岩手県立図書館では、防災の知識を遊びながら学ぶことができるよう、「防災ゲーム」の貸出を行っています。

個人貸出はもちろん、図書館や学校など、団体でもご利用いただけます。

団体で利用するにあたって

- * あらかじめ団体登録が必要です。（すでに団体登録をしている場合は不要）
- * 貸出期間は、ご要望に応じて調整します。ご相談ください。

ゲーム紹介

防災すごろく
GURAGURA TOWN

対象年齢：8歳以上
推奨人数：2～4人

「GURAGURA TOWN」は、町の中で買い物をしながらゴールを目指す防災すごろくゲームです。ときどき地震が起こる町の中をサイコロで進み、おつかいをしながらゴールを目指します。ゲームの途中で出題される「地震クイズ」におつかいで手に入れたアイテムカードで答え、災害時のトラブルを解決するために有効な方法を学びます。

「防災ゲームの内容を具体的に知りたい」「防災ゲームを借りたい」「防災ゲームイベントを開催したいけどどうしたら…？」など、お気軽にご相談ください。

■お問い合わせ・連絡先■

岩手県立図書館 ふるさと未来課



他にも…

いざというときに役立つ防災知識を学ぶことができる

「ぼうさい^{ダック}Duck」 「なまずの学校」
「防災カードゲーム シャッフル^{プラス}」
「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」

避難所運営や被災地ボランティアなど、災害対応について理解を深めることができる

「クロスロード」（【災害ボランティア編】 / 【市民編】 / 【神戸編・一般編】）
「避難所 HUG」

防災や復興について学べる
「トランプ」や「かるた」

「かたり・つぐ」 「地震防災かるた」
「しぞ〜か防災かるた」



岩手県立図書館報

としょかん いわて

No.197

発行日 令和7年9月22日

編集・発行 岩手県立図書館